

## 「順位法予測モデル」の試み①

大栗 正彦（中日新聞社）



### 1. はじめに

「順位法予測モデル」とは、松田が2012年9月の第2回世論・選挙調査研究大会で紹介した情勢調査を元にした選挙分析手法だ。過去の調査データと選挙結果から予測式を作って分析するのではなく、単独の調査から選挙予測をするという簡便な手法で、これをベースに12年12月の衆院選と13年7月の参院選の情勢分析を行った。

### 2. 順位法予測モデルの概略

考え方は「統計が苦手な方でも、簡単な予測はできる。例えば、各候補者の様々な層での支持率順位を調べて1位の数を求めてみる。各候補者の1位の数の割合を当選確率とみなすだけでも結構よい予測ができる」（「政策と調査」第3号）というもの。具体的には①世論調査で出てきた候補者ごとの支持率をさらに分解して、性別や年代、職業ごとの層別支持率を出して、その支持率の値で順位をつける②1位の数を合計して項目数で割ってその数字を当選確率とする—というもの（表1）。当選確率については、第3回世論・選挙調査研究大会で「統計的に使用方法がおかしい」という指摘が出された。強弱指標とか優勢指数でもいいが、本稿では松田の提案に沿って当選確率を使う。

順位法予測モデルでの順位の付け方は、例えば「①全体」というのは、世論調査での候補者ごとの支持率に順位をつけるというもの。表1の場合は、候補Bが43.3で1位、候補Cが38.2で2位となり以下、候補A、候補Dの順になる。「②大いに関心」というのは、「選挙に関心があるか」という質問に「大いに関心がある」と答えた人の中で、候補者ごとの支持率に順位をつける。表1では候補Cが1位で候補Bが2位となっている。「④投票先既決」というのは、投票する人を既に決めている、いわば選挙に必ず行く人たちの中での順位を決めるものだ。「⑤事務職層」「⑥主婦層」は職業別の分類で、「⑦中年層」「⑧高年層」は年齢の分類で、「⑨無党派層」は政党支持別の分類で順位をつける。「⑩担当者判断」は

その選挙を担当している記者が、自らの取材を加味して順位をつける。

こうして足上げた1位累計を項目数の10で割りその数値を当選確率とする。

(表1)

1位の累計で候補者の強さを推定

	■支持率	①全体	②大いに関心	③投票に行く	④投票先既決	⑤事務職層	⑥主婦層	⑦中年層	⑧高年層	⑨無党派層	⑩担当者判断	■1位累計	■当選確率	■選挙結果順	■選挙得票順
候補A	10.1	3	3	4	4	3	4	4	3	4	3	0	0.00	4	8.6
候補B	43.3	1	2	1	1	2	3	2	1	3	1	5	0.50	2	37.2
候補C	38.2	2	1	2	2	1	1	1	2	1	2	5	0.50	1	41.4
候補D	8.4	4	4	3	3	4	2	3	4	2	4	0	0.00	3	12.8

表1では候補Bと候補Cが5項目で1位になっているので、当選確率は共に「0.50」となる。10項目全てで1位の候補者は当選確率が「1.00」になる。衆院の全300選挙区で行えば、当選確率を合計すると300になる。

### 3. 衆院選結果

12年衆院選では東京と中部の10都県76選挙区で、順位法予測モデルに基づき序盤情勢調査で分析した。順位をつけた項目は、表1の項目から「投票に行く層」を外し、「男性」、「女性」、「若年層」や「無職層」、「政党支持層」を加えて全部で14項目（一部選挙区は13項目）にした（表2）。

(表2)

氏名	所属	担当記者評価	全体	投票先既決	大いに関心あり層	男性	女性	20・30代	40・50代	60代以上	民間企業	主婦	無職	無党派層	政党支持合計	1位累計	当選確率
A候補	〇〇															0	0.00
B候補	△△															0	0.00
C候補	□□															0	0.00
D候補	××															0	0.00

全項目で1位がついた当選確率「1.00」の候補者は31人で、その全員が当選している。31選挙区とも序盤から、31候補者が独走の1強状態の選挙になっていた。当選確率「0.75」以上の候補者は30人いて29人が当選している（表3）。当選確率「0.50」以上の候補者のうち96%が当選している。序盤情勢で低い当選確率で結果的に当選した候補者は、終盤情勢の調査時点では全て逆転している。

(表3)

衆院選76選挙区調査

当選確率	候補者数	当選者数	当選率%
1.00	31	31	100
0.75～	30	29	97
0.50～	15	13	87
0.25～	13	2	15
0.01～	52	1	2
0.00	207	0	0

序盤では民主が優勢でも終盤になると自民が逆転している選挙区もあったが、当選確率を出すことで変化を捉えることができた例もある。長野2区は民主候補が序盤情勢調査で自民候補に調査支持率で7ポイント差を付けていた。しかし、順位付けして出した当選確率では「0.50」で全く互角となった（表4）。各社の序盤情勢紙面で候補者名の順番を見ると、中日は「下条と務台が競り合う」という原稿で民主候補が先で、他紙は自民候補が先だった（表5）。終盤情勢調査では自民が逆転し当選確率は「0.88対0.12」になり、選挙結果では得票率で12ポイント差がついた。

(表4) 長野2区

氏名	所属	担当記者評価	全体	投票先既決	大いに関心あり層	男性	女性	20・30代	40・50代	60代以上	民間企業	主婦	無職	無党派層	政党支持合計	1位累計	当選確率	選挙順位	選挙得票率
下条	民主	1.5	1	2	2	2	1	1	2	2	1.5	1	2	4	1	7	0.50	2	27.3
務台	自民	1.5	2	2	1	2	2	3	1	1	1.5	2	1	1	2	7	0.50	1	39.5
百瀬	維新	3	3	4	4	3	3	2	3	4	3	4	3	2	3	0	0.00	3	21.0
北村	共産	4	4	3	3	4	4	4	4	3	4	3	4	3	4	0	0.00	4	11.3
味岡	諸派	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	0	0.00	5	0.9	

選挙結果では得票率で12ポイント差がついた。

(表5)

各社の序盤情勢の候補者順

		中日	朝日	読売	毎日	日経
下条	民主	1	2	2	2	2
務台	自民	2	1	1	1	1
百瀬	維新	3	3			
北村	共産	4	4			
味岡	諸派	5	5			

長野3区は民主、自民、みんなの党、維新の会の有力4候補が争う激戦区。調査支持率も6ポイント差の中に4候補がひしめいていた。これに順位付けしたところ民主候補の当選確率が0.54となり、次にみんなの党、自民、維新の順になった。情勢分析紙面でも民主、自民、みんなの党、維新の順番に掲載した。これは選挙結果通りだった(表6、表7)。

また東京21区の例。自民候補が民主候補と大接戦で、調査支持率では2ポイントの僅差でリード。当選確率では民主候補が「0.54対0.46」で逆にわずかに優勢。全くの互角だが、民主候補が1位になっていたのは「40・50代」「60代以上」「主婦」「無職」「無党派」で、実際に投票に行く層の支持でやや勢いがあった。結果も民主候補が得票率で6ポイント差をつけ勝利した。

(表6) 長野3区

所属	担当記者評価	全体	投票先既決	大いに関心あり層	男性	女性	20・30代	40・50代	60代以上	民間企業	主婦	無職	無党派層	政党支持合計	1位累計	当選確率	選挙順位	選挙得票率	
寺島	民主	1	1.5	1	3	3	1	1	5	1.5	5	1	1.5	3	1	7.5	0.54	1	27.8
木内	自民	2	1.5	2	1	2	2	4	3	1.5	3	2	1.5	2	2	2.5	0.18	3	24.9
井出	維新	4	4	4	4	4	3	3	2	3	1	4	4	4	4	1	0.07	4	11.9
岩谷	共産	5	5	4	5	5	5	5	4	5	4	5	3	4	5	0	0.00	5	8.5
井出	みんな	3	1.5	3	2	1	4	2	1	4	2	3	4	1	3	3.5	0.25	2	26.9

(表7)

各社の序盤情勢の候補者順

		中日	朝日	読売	毎日	日経
寺島	民主	1	2	2	2	2
木内	自民	3	1	1	1	1
井出	維新	4	4			4
岩谷	共産	5	5			5
井出	みんな	2	3	3	3	3

#### 4. 参院選結果

13年7月の参院選では終盤情勢で順位法予測モデルを用いた。関東と中部16都県が対象で、参院選は改選数1から5まであり、順位付けは衆院選より複雑になる。

衆院選は小選挙区なので、1位の人を選べばいいが、複数人の当選者が出る参院選では下位当選者を当てるのが難しい。改選数までの順位を全て1位として計算した。例えば、改選数3なら項目ごとに上位3人に1をつけた。

順位付けした項目は、衆院選時より増やして16項目にした。全項目で1位になった当選確率「1.00」の候補者は18人で、全員が当選している。「0.75」以上の候補者は9人で、やはり全員が当選(表8)。当選確率「0.50」以上の候補者では94%が実際に当選している。

(表8)

参院選16選挙区調査(改選数32)

当選確率	候補者数	当選者数	当選率%
1.00	18	18	100
0.75~	9	9	100
0.50~	6	4	67
0.25~	6	1	17
0.01~	8	0	0
0.00	54	0	0

(表9) 東京選挙区

氏名	所属	担当記者評価	全体	投票先既決層	投票先未定層	大いに関心あり層	投票に行く層	男性	女性	20・30代	40・50代	60代以上	民間企業	主婦	無職	無党派層	政党支持合計	1位累計	当選確率	選挙順位	選挙得票率
大河原	無所属	9	10	10	9	9	9	9	10	10	10	8	10	10	8	9	10	0	0.00	9	42
丸子	みどり	10	9	9	10	10	10	10	9	9	9	10	9	6	10	10	9	0	0.00	10	1.3
山口	公明	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15	0.94	2	14.2
武見	自民	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16	1.00	5	10.9
小倉	維新	1	8	7	8	6	8	8	8	8	7	6	8	8	7	7	8	1	0.06	7	7.3
丸川	自民	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16	1.00	1	18.9
吉良	共産	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16	1.00	3	12.5
桐島	みんな	1	7	8	1	7	7	7	6	6	8	9	7	7	9	6	7	2	0.13	8	5.7
鈴木	民主	1	6	1	7	1	6	6	1	7	6	1	6	1	1	8	1	8	0.50	6	9.8
山本	無所属	1	1	6	1	8	1	1	7	1	1	7	1	9	6	1	6	9	0.56	4	11.8

改選数が多い選挙区では下位当選者を当てることは難しいが、当選順位は外したが東京選挙区でも順位法予測モデルで行ったところ5人の当選者はうまく出すことができた(表9、表10)。

過去の情勢調査データと選挙結果を元に予測式を作ったりして綿密な情勢分析をしている他社の選挙情勢記事

(表10) 各社の終盤情勢の候補者順

		中日	朝日	読売	日経
山口	公明	3	4	3	3
武見	自民	1	2	1	1
小倉	維新	8	9	5	7
丸川	自民	2	1	2	2
吉良	共産	4	5	6	5
桐島	みんな	7	7	8	8
鈴木	民主	6	6	4	6
山本	無所属	5	3	7	4

と比べてみても、簡便な順位法予測モデルを使った分析でも遜色がないレベルの分析ができるのではないかとの印象をもった。

## 5. 検証

順位法予測モデルを使って情勢分析を行った2012年衆院選と13年参院選では、どちらの選挙もうまく候補者の強弱を浮かび

上がらせることができた。

参院選で順位付けに選んだ担当記者評価を除く15項目の説明変数がどれだけ効いていたのかを、エクセルの回帰分析で調べてみた(表11)。実際、順位法予測モデルの成否は、選択する説明変数によるところが大きい。項目数が多くても精度が上がるわけではなく、似たような項目を選べば多重共線性の問題が起きて、似たような変数で同じ分析をするという危険性がある。参院選の分析でも「女性」と「主婦」という似た項目を変数に選択した。ただ、初めて順位法予測モデルを使うので、どの変数が影響するか、事前に把握できなかったのも、承知の上で使った。

寄与率を示す重決定R<sup>2</sup>(1に近ければ精度が高い)は説明変数が増えると、必然的に1に近くなるので、この場合も項目が多かったことで1に近づいてしまった。絶対値が2以上であれば影響度が大きい変数であることが分かるt値でみると、「全体」「投票先既決層」「投票先未定層」「大いに関心あり層」「40・50代」「60代以上」の6つが絶対値で2以上ある説明変数であった。この6つはp値でも0.05以下で、順位を付ける項目として有効だといえそうだ。

また、サンプル数が少ない項目を説明変数に選択すると、他の項目は下位であるのに、

(表11)

回帰統計	
重相関 R	0.99285345
重決定 R <sup>2</sup>	0.98575798
補正 R <sup>2</sup>	0.98324468
標準誤差	2.22214414
観測数	101

分散分析表

	自由度	変動	分散	測された分散	有意 F
回帰	15	29051.0685	1936.7379	392.216986	1.08657E-71
残差	85	419.72359	4.93792458		
合計	100	29470.7921			

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%
切片	1.26003297	0.34654479	3.63598872	0.00047365	0.571009085	1.94905685
全体	-7.7596746	3.53135198	-2.1973665	0.03071455	-14.78094825	-0.7384009
投票先既決層	2.07709271	0.64532907	3.21865669	0.00182405	0.794005669	3.36017976
投票先未定層	0.8734818	0.29771949	2.93390873	0.00430226	0.281535711	1.46542789
大いに関心あり層	-0.2508948	0.09646697	-2.6008366	0.01096646	-0.442697002	-0.0590926
投票に行く層	0.31060169	0.26911783	1.1541476	0.25167438	-0.224476632	0.84568002
男性	2.10556649	1.44281676	1.45934436	0.1481562	-0.763139707	4.97427269
女性	1.33581739	1.2129902	1.10125984	0.27389234	-1.075932048	3.74756683
20・30代	0.67746894	0.40297937	1.68115044	0.09640485	-0.123761989	1.47869988
40・50代	0.86163649	0.41900419	2.0563911	0.04281195	0.028543918	1.69472906
60代以上	1.31621249	0.59394183	2.21606296	0.02935902	0.135297036	2.49712795
民間企業	-0.2739665	0.1477565	-1.8541755	0.06718221	-0.567746005	0.01981302
主婦	0.07377376	0.10757961	0.68575964	0.49473086	-0.140123332	0.28767085
無職	-0.026075	0.16819831	-0.1550251	0.87716908	-0.360498249	0.30834834
無党派層	0.01517931	0.05984758	0.25363285	0.8003917	-0.103813716	0.13417234
政党支持合計	-0.4157025	0.26165107	-1.5887666	0.11582605	-0.935934878	0.10452994

その1項目だけが1位になり当選確率がひと桁という候補が出てくるといふ弊害が出る。参院選では「20・30代支持」が1位で当選確率0.06の共産候補が散見された。実際の選挙で上位にくることは東京以外なかった。これは若年層のサンプルが少ないので、わずかの数でゆがみが出てきてしまうためだ。このため候補者の当選確率を所属政党ごとに積み上げて、合計数をその政党の獲得議席数と予測するのはやや無理がある。当選確率を出す説明変数を吟味した上で行う必要がある。

## 6. まとめ

衆院選でも参院選でも「0.75」の確率以上の候補者はほぼ当選していて、順位法予測モデルは、運用にたえる手法だと思う。候補者ごとに、男女別にどちらの支持が高いのか、年代ごとの支持はどうなっているのか、などが数値化される。激戦区は確率が拮抗し、単純に調査支持率だけの比較では見えてこない選挙の様相が分かってくる。選挙区単位での分析には効果がある。課題としては、選択する項目が正しいのかどうか、検証していく必要がある。

過去の調査と選挙結果を基に予測式を作って情勢分析を行うのが中心だが、1回の調査で簡便な手法をとっても、情勢分析が可能になるということは画期的だ。特に、過去データが生かされにくい首長選に応用が期待される。

(以下は順位法予測モデルの結果)

衆院選

選挙区	所属	順位		選挙結果	
		累計位	確当率選	得票率	当選者
東京1区	自民	9.5	0.73	29.3	○
	民主	3.5	0.27	28.9	
	諸派	0	0.00	0.4	
	共産	0	0.00	6.7	
	未来	0	0.00	5.3	
	みんな	0	0.00	11.3	
	維新	0	0.00	17.2	
	諸派	0	0.00	0.7	
	無所属	0	0.00	0.2	
東京2区	自民	9.5	0.73	32.4	○
	みんな	0	0.00	18.6	
	民主	3	0.23	24.7	
	維新	0.5	0.04	14.7	
	共産	0	0.00	8.8	
	無所属	0	0.00	0.8	
東京3区	民主	2	0.15	41.3	
	自民	11	0.85	42.0	○
	未来	0	0.00	8.8	
	共産	0	0.00	7.9	
東京4区	民主	0	0.00	17.3	
	みんな	0	0.00	14.2	
	共産	0	0.00	9.8	
	自民	13	1.00	39.4	○
	諸派	0	0.00	1.1	
	維新	0	0.00	18.3	
東京5区	みんな	0	0.00	16.7	
	民主	2.5	0.19	23.5	
	諸派	0	0.00	0.4	
	共産	0	0.00	5.6	
	維新	0	0.00	16.3	
	自民	10	0.77	30.5	○
	未来	0.5	0.04	7.0	
東京6区	共産	0	0.00	8.3	
	自民	11.5	0.88	32.9	○
	民主	1	0.08	23.5	
	維新	0.5	0.04	17.7	
	みんな	0	0.00	17.6	
東京7区	維新	0	0.00	17.3	
	共産	0	0.00	7.4	
	未来	0	0.00	6.6	
	民主	13	1.00	38.2	○
	自民	0	0.00	30.0	
	無所属	0	0.00	0.5	
東京8区	民主	0	0.00	19.4	
	自民	13	1.00	46.9	○
	共産	0	0.00	8.5	
	無所属	0	0.00	25.2	
東京9区	共産	0	0.00	9.2	
	民主	0	0.00	16.7	
	自民	11	0.85	53.5	○
	未来	2	0.15	20.6	
東京10区	共産	0	0.00	10.9	
	民主	0	0.00	23.4	
	自民	13	1.00	53.7	○
	未来	0	0.00	12.0	
東京11区	自民	13	1.00	45.5	○
	民主	0	0.00	14.1	
	維新	0	0.00	19.3	
	共産	0	0.00	10.8	
	未来	0	0.00	10.3	
東京12区	公明	13	1.00	51.4	○
	共産	0	0.00	18.9	
	諸派	0	0.00	4.2	
	未来	0	0.00	25.4	
東京13区	民主	0	0.00	11.5	
	未来	0	0.00	7.8	
	維新	1	0.08	20.4	
	自民	12	0.92	50.3	○
	共産	0	0.00	10.0	

衆院選

選挙区	所属	順位		選挙結果	
		累計位	確当率選	得票率	当選者
東京14区	民主	0	0.00	11.4	
	共産	0	0.00	9.5	
	維新	0	0.00	18.9	
	無所属	0	0.00	0.3	
	未来	0	0.00	16.6	
	自民	13	1.00	42.5	○
	無所属	0	0.00	0.8	
東京15区	民主	0	0.00	12.3	
	共産	0	0.00	7.8	
	みんな	7.5	0.58	36.9	○
	未来	0	0.00	11.9	
	自民	5.5	0.42	31.0	
東京16区	維新	0	0.00	18.6	
	民主	1	0.08	9.1	
	未来	0	0.00	11.0	
	共産	0	0.00	6.0	
	自民	12	0.92	38.0	○
	みんな	0	0.00	17.2	
東京17区	自民	13	1.00	55.1	○
	民主	0	0.00	15.8	
	維新	0	0.00	19.0	
	共産	0	0.00	10.1	
東京18区	自民	11.5	0.88	32.2	○
	未来	0	0.00	6.1	
	民主	1.5	0.12	28.3	
	無所属	0	0.00	17.2	
	共産	0	0.00	5.1	
	維新	0	0.00	11.0	
東京19区	未来	0	0.00	7.6	
	民主	1	0.08	27.6	
	共産	0	0.00	8.4	
	維新	0	0.00	22.0	
	自民	12	0.92	34.4	○
東京20区	維新	0	0.00	20.6	
	共産	0	0.00	13.6	
	民主	0	0.00	25.3	
	自民	13	1.00	40.4	○
東京21区	共産	0	0.00	9.6	
	民主	7	0.54	36.5	○
	自民	6	0.46	30.8	
	無所属	0	0.00	1.9	
	未来	0	0.00	5.0	
	維新	0	0.00	16.2	
東京22区	民主	0	0.00	23.0	
	共産	0	0.00	8.9	
	みんな	0	0.00	13.1	
	自民	13	1.00	40.0	○
	諸派	0	0.00	0.8	
	維新	0	0.00	14.1	
東京23区	未来	0	0.00	6.3	
	維新	0.5	0.04	20.5	
	みんな	0	0.00	13.7	
	民主	1	0.08	22.1	
	共産	0	0.00	7.3	
	自民	11.5	0.88	30.2	○
東京24区	みんな	0	0.00	14.9	
	共産	0	0.00	7.8	
	維新	0	0.00	10.9	
	自民	12	0.92	44.2	○
	民主	1	0.08	22.1	
東京25区	自民	13	1.00	54.4	○
	共産	0	0.00	9.6	
	未来	0	0.00	5.8	
	維新	0	0.00	14.7	
	民主	0	0.00	15.5	

衆院選

選挙区	所属	順位		選挙結果	
		累1計位	確当率選	得票率	当選者
富山1区	民主	0.5	0.04	29.8	
	自民	13.5	0.96	48.6	○
	共産	0	0.00	4.9	
	無所属	0	0.00	16.8	
富山2区	自民	14	1.00	75.0	○
	共産	0	0.00	6.3	
富山3区	社民	0	0.00	18.6	
	民主	2	0.14	16.6	
	自民	12	0.86	77.1	○
石川1区	共産	0	0.00	6.3	
	民主	0	0.00	22.9	
石川1区	自民	14	1.00	47.9	○
	維新	0	0.00	19.8	
	共産	0	0.00	4.3	
石川2区	民主	0	0.00	19.7	
	自民	14	1.00	64.5	○
石川2区	共産	0	0.00	6.9	
	社民	0	0.00	9.0	
	民主	2	0.14	38.1	
石川3区	自民	12	0.86	54.4	○
	共産	0	0.00	7.4	
	民主	0	0.00	17.8	
福井1区	自民	14	1.00	52.6	○
	維新	0	0.00	22.9	
	共産	0	0.00	4.8	
	社民	0	0.00	2.1	
福井2区	民主	1	0.07	29.8	
	自民	12	0.86	52.9	○
	共産	0	0.00	4.1	
	みんな	1	0.07	13.2	
福井3区	民主	0	0.00	21.2	
	自民	14	1.00	57.9	○
	維新	0	0.00	15.7	
長野1区	共産	0	0.00	5.3	
	民主	11.5	0.79	36.6	○
	自民	2	0.14	32.7	
	維新	1	0.07	19.6	
長野2区	共産	0	0.00	11.1	
	民主	7	0.50	27.3	
	自民	7	0.50	39.5	○
長野2区	維新	0	0.00	21.0	
	共産	0	0.00	11.3	
	諸派	0	0.00	0.9	
	民主	7.5	0.52	27.8	○
長野3区	自民	2.5	0.17	24.9	
	維新	1	0.07	11.9	
	共産	0	0.00	8.5	
	みんな	3.5	0.24	26.9	
長野4区	民主	0	0.00	30.3	
	自民	14	1.00	43.9	○
	未来	0	0.00	13.2	
	共産	0	0.00	12.6	
長野5区	民主	0	0.00	13.7	
	自民	14	1.00	52.3	○
	未来	0	0.00	16.2	
	共産	0	0.00	9.9	
長野5区	社民	0	0.00	8.0	

衆院選

選挙区	所属	順位		選挙結果	
		累1計位	確当率選	得票率	当選者
岐阜1区	民主	4	0.29	30.0	
	自民	10	0.71	49.9	○
	未来	0	0.00	11.8	
	共産	0	0.00	7.0	
岐阜2区	諸派	0	0.00	1.2	
	民主	0	0.00	12.6	
	自民	14	1.00	63.4	○
	未来	0	0.00	17.4	
岐阜3区	共産	0	0.00	6.5	
	民主	0	0.00	29.5	
	自民	14	1.00	50.8	○
岐阜3区	共産	0	0.00	6.7	
	民主	0	0.00	14.1	
岐阜4区	自民	14	1.00	53.1	○
	維新	0	0.00	25.9	
	共産	0	0.00	6.9	
	民主	0	0.00	31.1	
岐阜5区	自民	14	1.00	55.6	○
	共産	0	0.00	10.6	
	諸派	0	0.00	2.7	
静岡1区	民主	1	0.07	23.9	
	自民	12	0.86	36.2	○
	維新	1	0.07	18.5	
	共産	0	0.00	6.1	
静岡2区	みんな	0	0.00	15.3	
	民主	0	0.00	31.3	
	自民	13	0.93	43.9	○
静岡2区	維新	1	0.07	19.4	
	共産	0	0.00	5.5	
	民主	1	0.07	26.5	
静岡3区	自民	11	0.79	40.3	○
	維新	1	0.07	27.3	
	共産	1	0.07	5.9	
静岡4区	民主	1.5	0.11	32.1	
	自民	12.5	0.89	53.1	○
	未来	0	0.00	8.4	
	共産	0	0.00	6.4	
静岡5区	民主	12	0.86	59.0	○
	自民	2	0.14	31.9	
	共産	0	0.00	5.8	
静岡5区	無所属	0	0.00	3.3	
	民主	13.5	0.96	45.6	○
静岡6区	自民	0.5	0.04	40.8	
	未来	0	0.00	7.9	
	共産	0	0.00	5.7	
	民主	0	0.00	19.2	
静岡7区	自民	14	1.00	59.6	○
	共産	0	0.00	3.5	
	みんな	0	0.00	14.3	
静岡8区	民主	0	0.00	17.6	
	自民	14	1.00	44.4	○
	みんな	0	0.00	4.9	
愛知1区	維新	0	0.00	26.9	
	共産	0	0.00	6.1	
	共産	1	0.07	8.2	
	民主	0	0.00	19.3	
愛知1区	未来	1	0.07	31.8	
	自民	12	0.86	40.7	○

衆院選

選挙区	所属	順位		選挙結果	
		累計位	確当率選	得票率	当選者
愛知2区	共産	0	0.00	8.1	
	民主	12.5	0.89	44.8	○
	未来	0	0.00	15.2	
	自民	1.5	0.11	31.9	
愛知3区	自民	5	0.36	36.7	○
	共産	0	0.00	9.6	
	未来	0	0.00	18.8	
	民主	9	0.64	34.9	
愛知4区	民主	0.5	0.03	16.4	
	未来	5	0.34	22.2	
	維新	1.5	0.10	17.6	
	自民	7.5	0.52	34.0	○
	共産	0	0.00	9.8	
愛知5区	自民	8	0.57	32.0	○
	維新	1	0.07	18.0	
	共産	0	0.00	7.7	
	民主	5	0.36	31.1	
	未来	0	0.00	11.2	
愛知6区	自民	14	1.00	49.1	○
	民主	0	0.00	24.4	
	未来	0	0.00	16.0	
	共産	0	0.00	10.4	
愛知7区	未来	0	0.00	15.2	
	自民	13	0.93	42.8	○
	民主	1	0.07	35.9	
	共産	0	0.00	6.1	
愛知8区	民主	5	0.36	32.8	
	自民	9	0.64	46.7	○
	共産	0	0.00	6.8	
	未来	0	0.00	13.6	
愛知9区	自民	12	0.83	39.4	○
	共産	0	0.00	6.4	
	未来	0	0.00	8.5	
	民主	2	0.14	26.1	
	維新	0.5	0.03	19.6	
愛知10区	自民	13	0.93	41.4	○
	共産	1	0.07	7.2	
	未来	0	0.00	11.0	
	民主	0	0.00	14.4	
	みんな	0	0.00	26.0	
愛知11区	民主	9.5	0.68	51.9	○
	諸派	0	0.00	4.8	
	共産	0	0.00	6.0	
	自民	4.5	0.32	37.3	
愛知12区	共産	0	0.00	3.4	
	みんな	0	0.00	10.9	
	民主	1.5	0.11	29.0	
	自民	12.5	0.89	32.3	○
	維新	0	0.00	24.4	
愛知13区	自民	13.5	0.96	40.3	○
	未来	0	0.00	15.3	
	民主	0	0.00	39.7	
	共産	0.5	0.04	4.7	
愛知14区	民主	0	0.00	12.5	
	未来	4	0.29	36.9	
	自民	10	0.71	44.7	○
	共産	0	0.00	5.8	
愛知15区	共産	0	0.00	5.2	
	社民	0	0.00	3.9	
	自民	14	1.00	36.6	○
	無所属	0	0.00	10.5	
	民主	0	0.00	24.4	
	維新	0	0.00	19.4	

衆院選

選挙区	所属	順位		選挙結果	
		累計位	確当率選	得票率	当選者
三重1区	維新	0	0.00	29.2	
	自民	13	1.00	47.3	○
	民主	0	0.00	15.4	
	共産	0	0.00	8.0	
三重2区	民主	13	1.00	43.1	○
	維新	0	0.00	18.7	
	自民	0	0.00	28.8	
	共産	0	0.00	7.3	
	無所属	0	0.00	2.0	
三重3区	民主	13	1.00	64.1	○
	自民	0	0.00	27.8	
	共産	0	0.00	8.1	
三重4区	民主	0	0.00	34.7	
	自民	13	1.00	57.5	○
	共産	0	0.00	7.8	
三重5区	共産	0	0.00	8.3	
	自民	13	1.00	58.9	○
	民主	0	0.00	32.8	
滋賀1区	民主	5	0.34	31.6	
	自民	4.5	0.31	34.9	○
	維新	5	0.34	22.3	
	共産	0	0.00	10.2	
滋賀2区	民主	1.5	0.11	31.5	
	自民	12.5	0.89	43.3	○
	共産	0	0.00	7.8	
	みんな	0	0.00	17.4	
滋賀3区	民主	10.5	0.75	34.8	
	自民	2.5	0.18	37.7	○
	維新	1	0.07	21.1	
	共産	0	0.00	6.4	
滋賀4区	民主	3.5	0.24	25.4	
	自民	9	0.62	32.8	○
	維新	2	0.14	27.4	
	共産	0	0.00	7.3	
	無所属	0	0.00	7.1	

参院選

選挙区	所属	順位		選挙結果	
		累計位	確当率選	得票率	当選者
茨城県	維新	0	0.00	11.0	
	みんな	5	0.31	13.3	
	諸派	0	0.00	1.3	
	共産	1	0.06	8.4	
	民主	11	0.69	17.6	○
	自民	16	1.00	48.4	○
栃木県	民主	0	0.00	20.3	
	共産	0	0.00	5.3	
	みんな	0	0.00	25.8	
	諸派	0	0.00	0.6	
	自民	16	1.00	48.1	○
群馬県	民主	0	0.00	15.3	
	自民	16	1.00	71.9	○
	諸派	0	0.00	1.4	
	共産	0	0.00	11.4	
埼玉県	自民	16	1.00	34.1	○
	公明	13	0.81	20.4	○
	みんな	11	0.69	16.5	○
	社民	0	0.00	2.2	
	民主	3	0.19	13.3	
	諸派	0	0.00	0.8	
	諸派	0	0.00	0.7	
	共産	7	0.44	12.0	

参院選

選挙区	所属	順位		選挙結果	
		累1 計位	確当 率選	得票 率	当選者
千葉県	自民	16	1.00	28.5	○
	民主	14	0.88	16.3	○
	自民	4	0.25	17.5	○
	共産	4	0.25	9.7	
	生活	0	0.00	6.2	
	諸派	0	0.00	0.4	
	みんな	10	0.63	11.9	
	維新	0	0.00	7.8	
	諸派	0	0.00	1.6	
	東京都	無所属	0	0.00	4.2
みどり		0	0.00	1.3	
公明		15	0.94	14.2	○
自民		16	1.00	10.9	○
維新		1	0.06	7.3	
自民		16	1.00	18.9	○
共産		16	1.00	12.5	○
みんな		2	0.13	5.7	
民主		8	0.50	9.8	
無所属		9	0.56	11.8	○
神奈川県	公明	14	0.88	16.0	○
	共産	7	0.44	11.3	
	無所属	0	0.00	0.8	
	自民	16	1.00	28.8	○
	みどり	0	0.00	3.0	
	維新	0	0.00	6.2	
	社民	0	0.00	2.0	
	みんな	16	1.00	18.8	○
	民主	12	0.75	11.7	○
	諸派	0	0.00	1.1	
富山県	諸派	0	0.00	4.4	
	無所属	0	0.00	6.4	
	共産党	0	0.00	12.1	
	自民党	16	1.00	77.1	○
石川県	民主	0	0.00	23.0	
	共産	1	0.06	8.1	
	諸派	0	0.00	2.0	
	自民	15	0.94	64.8	○
	無所属	0	0.00	2.0	
福井県	民主	0	0.00	16.8	
	自民	16	1.00	70.6	○
	共産	0	0.00	10.6	
	諸派	0	0.00	2.1	
長野県	自民	16	1.00	37.2	○
	民主	16	1.00	30.0	○
	共産	0	0.00	15.8	
	無所属	0	0.00	5.3	
	諸派	0	0.00	0.8	
	みんな	0	0.00	10.9	

参院選

選挙区	所属	順位		選挙結果	
		累1 計位	確当 率選	得票 率	当選者
岐阜県	民主	1	0.06	25.6	
	自民	15	0.94	58.8	○
	諸派	0	0.00	2.1	
	共産	0	0.00	13.6	
静岡県	共産	0	0.00	7.6	
	維新	0	0.00	7.8	
	自民	16	1.00	41.5	○
	民主	16	1.00	31.7	○
	諸派	0	0.00	0.9	
	みんな	0	0.00	12.2	
愛知県	共産	6	0.38	9.1	
	減税	0	0.00	5.1	
	諸派	0	0.00	1.0	
	社民	0	0.00	1.6	
	みんな	11	0.69	11.6	○
	自民	16	1.00	35.4	○
	諸派	0	0.00	0.4	
	みどり	0	0.00	2.1	
	維新	2	0.13	8.8	
	民主	15	0.94	24.9	○
三重県	民主	2	0.13	37.6	
	諸派	0	0.00	1.0	
	維新	0	0.00	8.4	
	共産	0	0.00	7.0	
	無所属	0	0.00	1.8	
	自民	14	0.88	44.2	○
滋賀県	自民	16	1.00	53.4	○
	共産	0	0.00	15.1	
	民主	0	0.00	29.2	

(注) 衆院選で1位累計に小数点以下があるのは、同率の場合に両者0.5としたため。参院選では同率の場合は両者に1。また、参院選で、候補者が多い選挙区は上位10人まで計算した。

《参考文献》

松田映二(2012) 選挙予測の課題—調査手法及び運用と予測式の影響を探る—、「政策と調査」第3号、10～18